

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に係わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会のニーズに応えるために分野横断的・総合的研究を推進しています。そのため令和3年度から7年度まで第5期中長期計画を策定し、3つの重点課題を設定し、その中に9つの戦略課題を設けて研究を推進しています。関西支所では、以下の2つの重点課題（1～2）の中の6つの戦略課題（1ア～2ウ）に勢力を投入し、環境変動下での森林の多面的機能の発揮に資する成果および森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する成果を得るために、林業現場や自然フィールドに密着した研究を中心に56課題を実施しています（P.7～10の課題一覧表参照）。

1 環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発

- 1ア 気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発
- 1イ 森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発
- 1ウ 森林保全と防災・減災に向けた研究開発

2 森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発

- 2ア 林産物の安定供給と多様な森林空間利用の促進に資する研究開発
- 2イ 生物特性を活用した防除技術ときのこ等微生物利用技術の開発
- 2ウ 木材利用技術の高度化と需要拡大に向けた研究開発

研究課題の予算規模、投入勢力は課題によって様々です。関西支所では21課題で主査（課題責任者）を務めています。それ以外の課題は、森林総合研究所（つくば）や大学など他機関の研究員が主査を務め、関西支所では課題の一部を分担しています。56課題の予算区分別の内訳は、交付金一般研究費が12課題、森林総合研究所の所内の交付金プロジェクトが5課題、基盤課題が5課題で、残り34課題が外部資金です。基盤課題では中長期目標期間を超えて取り組む必要のある長期モニタリングを行っています。外部資金の中では科学研究費助成事業が22課題と多く、そのほか農林水産省、環境省の研究費や事業費および助成金を獲得し研究を遂行しています。

このうち、関西支所で重要なテーマとして研究を推進している課題は、

2イ aPF4 サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発（P.34 参照）

2ア aPS2 広葉樹利用に向けた林分の資産価値および生産コストの評価（P.29 参照）

などが挙げられます。これらはそれぞれ、バラ科樹木への大きな影響が懸念される外来害虫を防除するための課題と、広葉樹林を有効的に循環利用するための課題です。林業事業体や市民団体などへの成果の普及を実現し、地域における「橋渡し機能」を果たすことが期待されています。

